

令和 6 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	4 6		学校名	土浦第二高等学校				課程	全日制		学校長名		深谷 靖				
副校長名	益子 和幸				教頭名		速水 奈穂美					事務室長名		野村 一夫			
教職員数	教諭	56	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	5	実習教諭、実習講師、 実習助手		1	事務職員	5	技術職員等	4	計	77
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合 計 クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科		1 4 6	1 7 3	1 3 4	1 8 3	1 3 7	1 7 7			4 1 7	5 3 3	2 4				

2 目指す学校像

自律的で責任感のある人間として、多様な価値観をふまえ協働して活動し、現代社会を生きるための柔軟な思考力・判断力・表現力をもって、客観的に分析・考察することのできる人材を育成します。
1 未来に必要な資質・能力を身につけ、個々の学力の伸長と進路希望の実現を図る学校
2 豊かな感性や人間としてよりよく生きていく力を高める学校
3 保護者や地域との連携を推進し、信頼される開かれた学校

3 三つの方針（スクールポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）	豊かな人間性、幅広い知識と柔軟な思考に基づく判断力・行動力を有し、変化の激しい社会を心豊かにたくましく生きる人材を育成する教育活動を通して、魅力と活力ある学校を目指す。 1 未来に必要な資質・能力を身につけ、個々の学力の伸長と進路希望の実現を図る学校。 2 豊かな感性や人間としてよりよく生きていく力を高める学校。 3 保護者や地域との連携を推進し、信頼される開かれた学校。
教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	1 授業の充実を図り、知的好奇心や学習意欲を高め、情報活用能力を育成しながら、自主的・能動的な学習習慣を確立させる。 2 組織的・系統的なキャリア教育を充実させ、自己探究や自己実現に努める生徒を育てる。 3 特別活動等への積極的な参加を促進し、豊かな感性や道徳的実践力を高める。
入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）	1 「夢探し！夢づくり！！そして、夢のゴールへ！！！」のキーワードのもと、夢の実現を目指す生徒。 2 現代社会を生きるための実践的で幅広い知識・技能の習得に努める生徒。

別紙様式 1 (高)

	3 柔軟な思考力・判断力・表現力の習得に努める生徒。
	4 多様な考えを受容し、協働して課題解決に努める生徒。

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学力の伸長	1 保護者をはじめ、地域からの本校に対する期待は高く、それに応えるように努めており、国公立大学現役合格者数 100 名以上を 7 年連続で達成し、今春の卒業生については、国公立大学合格者 132 名となった。今後も生徒の進路希望実現の視点から、さらなる充実を図り、改革・改善を進める。 2 確かな学力の定着に必要な自主学習時間が、十分に確保されていない生徒が見受けられる。	・国公立大学現役合格者数（100 名以上の継続）、難関国公立大・首都圏の難関私大合格者数をさらに増加させる。 ・学習意欲を高め、計画的な家庭学習の定着を図る。（最低、学年プラス 2 時間の確保） ・I C T 活用による授業改善を行い、生徒の学習意欲を向上させる。
特別活動の充実	1 学校行事をはじめ、生徒による自主的な企画運営による様々な活動が展開された。 2 部活動参加率は学校全体で 80%と、活発な活動が展開されている。各種大会・コンクール等で優秀な成績を収めている部活動も多い。	・活動環境の整備を進め、参加率を更に高めることにより、協働して物事に取り組む姿勢を育む。 ・委員会活動やボランティア活動を通して、生徒の自律的な活動の充実を図る。 ・キャリア・パスポートの活用を推進し、自己理解の深化と自己受容を図る。
国際理解の推進	1 令和 5 年 7 月にオーストラリアにて、本校では 2 回目となる海外派遣研修を実施した。今後も、国際理解の推進や自己探求のために事業を継続する。 2 国際社会に生きる一人の人間としてとして、生徒の見聞を広め、将来に向けた展望を持たせる取り組みを進める。	・海外研修の実施方法を検討する。 ・国際社会での活躍に向けて、「体験的な知識」を習得できるプログラムの開発。
保護者や地域との連携	1 年間 2 回の三者面談を行い、保護者との意思疎通を十分図りながら、生徒の指導を行っている。 2 授業公開や学校説明会、ホームページ等により、地域に向けた情報を発信している。また、地域住民と合同の防災訓練を実施し、地域との連携を一層深めている。	・三者面談の他、年間 3 回の生徒面談週間を設定し、さらなる生徒理解を図る。 ・グループウェア等を活用し、保護者と連携し迅速かつ的確な情報の共有を図る。併せて本校の教育活動に対する理解と協力を促す。
働き方改革	1 全職員が、これまで慣例的に行ってきた業務の見直しや優先順位が低いと思われる業務の省力化が必要である。 2 家庭・地域との役割分担を明確にする。	・I C T 等の利活用により、業務の適正化と効率化を徹底する。 ・家庭、地域との連携や情報共有を推進するための適切な手段を精選する。

別紙様式 1 (高)

5 中期的目標

- 1 授業の充実を図り、知的好奇心や学習意欲を高め、自主的・能動的な学習習慣を確立させる。
- 2 組織的・系統的なキャリア教育を充実させ、自己探求や自己実現に努める生徒を育てる。
- 3 特別活動等への積極的な参加を促進しながら、豊かな感性や道徳的实践力を高める。
- 4 積極的な情報発信に努め、地域社会との連携を充実させ、地域からの信頼を一層高める。
- 5 働き方改革を推進し、教職員のワークライフバランスの実現に資する業務改善と職場環境づくりをさらに推進する。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 授業の充実と学習習慣の確立	・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業の工夫・改善により、新しい時代に必要となる「学びに向かう力、人間性等の涵養、生きて働く知識及び技能の習得、未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等」の育成を図る。 ・ICT環境を適切に活用した学習活動の充実を図るとともに、学びの保証に備えた多様な教育形態を強化する。 ・観点別評価をより明確にしながら、年間指導計画に沿った授業展開と自学自習の習慣化を図り、自主学習時間を増加させる。自主学習時間の目安を、1年生3時間、2年生4時間、3年生5時間とする。 ・担任と生徒の個別面談の推進（年間4回以上） ・生徒一人一人の進路実現のために、平常日・長期休業中において、各学年・各教科の組織的・計画的な課外活動の実施。・土曜講座・学習会を開講する。 ・学習室・多目的室（19時まで使用可）を開放し、よりよい学習環境を構築する。
2 授業改善	・授業改善推進チームを中心として、校内研修や学習会により、授業を振り返る活動を推進する。 ・「生徒の授業満足度」について、授業担当者の80%が評価平均3.5以上とする。 ・「DXハイスクール」事業を活用し、探究的な学習活動をより推進させる。
3 特別活動の充実と基本的生活習慣の確立	・ホームルーム・委員会・部活動などの生徒の主体的活動を支援し、道徳的实践力を高める。 ・ルールやマナーを守る土浦二高生としての品格ある行動を確立させる。 ・生徒各自がスケジュールを管理し、自律的で責任ある生活習慣を確立させる。 ・教室の清掃をはじめとした校内美化活動を通して、奉仕の精神と豊かな心を育成し、安心・安全な学校生活を確立する。 ・各学年ともにHRにおいて「キャリア・パスポート」を活用し、記録を用いた話し合い活動や意思決定により、生徒一人一人のキャリア形成に努める。
4 国際理解の推進	・海外研修を継続的に推進し、留学の受け入れや海外の教育機関との国際交流活動を積極的に取り組む。

別紙様式 1（高）

	・多様性に配慮することのできる将来のグローバルリーダーとしての素養を養い、複雑化する社会課題の解決に向けた、国際人としての行動力を身につける。
5 保護者及び地域との連携の推進	・保護者面談を計画的に実施してニーズに応える情報提供に努めることで、教育活動への理解と支援を得る。 ・魅力ある学校行事を創意工夫して、保護者の積極的参加を促す。 ・ホームページの定期的更新と広報資料（学校パンフレット等）の充実を図り、教育活動の情報を広く発信する。 ・地域資源の活用や高大連携の活動を充実させ、地域に発信する。
6 働き方改革	・教職員の共通理解を図り、新たな教育課題等に適切に対応できる学校体制の構築し、限られた時間の中で教員の生徒と向き合う時間を確保し、教育の質の向上を図る。 ・業務の ICT 化を一層推進し、業務の効率化とペーパーレス化、類似業務の統廃合を行う。 ・家庭や地域と学校の役割分担を見直すために、家庭や地域への情報発信を推進し、意見聴取しながら校務に反映させる。 ・教員以外の専門スタッフ等の体制拡充と外部人材の活用推進。 ・教材教具等の共有や外部の教育資源とデジタル教材の活用推進。